

令和7年度

奈良県職業訓練実施計画の策定方針(案)

令和7年度概算要求額 **556**億円 (540億円) ※ ()内は前年度当初予算額

労働特会			子子特会	一般 会計
労災	雇用	徴収	育休	
	9/10			1/10

1 事業の目的

「デジタル田園都市国家構想総合戦略」（令和4年12月閣議決定）において、職業訓練のデジタル分野の重点化等により、令和8年度末までに政府全体で230万人のデジタル推進人材を育成することとされているほか、デジタル田園都市国家構想を実現するためには、全ての労働人口がデジタルリテラシーを身に付け、デジタル技術を活用できるようにすることが重要であるとされている。

このため、公共職業訓練（委託訓練）及び求職者支援訓練を実施する民間教育訓練機関に対する、**①デジタル分野の訓練コースの委託費等の上乗せをする**ほか、**②オンライン訓練においてパソコン等の貸与に要した経費を委託費等の対象とする**ことにより、デジタル推進人材の育成を行う。また、これらのデジタル分野の訓練コースを受講する方に対し、引き続き、生活支援の給付金（職業訓練受講給付金）の支給を通じて早期の再就職等を支援する。さらに、全国87箇所の生産性向上人材育成支援センター（独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構）において、在職者に対して実施する**③DXに対応した生産性向上支援訓練の機会を拡充**し、中小企業等のDX人材育成を推進する。加えて、**④デジタル分野以外の訓練コースにおいてもDXリテラシー標準に沿ったデジタルリテラシーを身に付けることができるよう、質的拡充を図る**。

2 事業の概要

令和5年度事業実績（速報値）：公共職業訓練（委託訓練）9,788人／求職者支援訓練14,915人／生産性向上支援訓練13,682人

①デジタル分野の訓練コースの委託費等の上乗せ

(1) DX推進スキル標準に対応した訓練コース又はデジタル分野の資格取得率等が一定割合以上の訓練コースの場合、委託費等を上乗せする
(IT分野の資格取得率等が一定割合以上の訓練コースは、一部地域を対象に更に上乗せ)

(2) 企業実習を組み込んだデジタル分野の訓練コースについて、委託費等を1人当たり2万円上乗せする

②オンライン訓練におけるパソコン等の貸与の促進

デジタル分野のオンライン訓練（eラーニングコース）において、受講者にパソコン等を貸与するために要した経費を、1人当たり月1.5万円を上限に委託費等の対象とする

③生産性向上支援訓練（DX関連）の機会の拡充

中小企業等の在職者に対して実施する、民間教育訓練機関を活用した生産性向上支援訓練（DX関連）の機会を拡充する（+3,000人）【拡充】

④デジタルリテラシーの向上促進

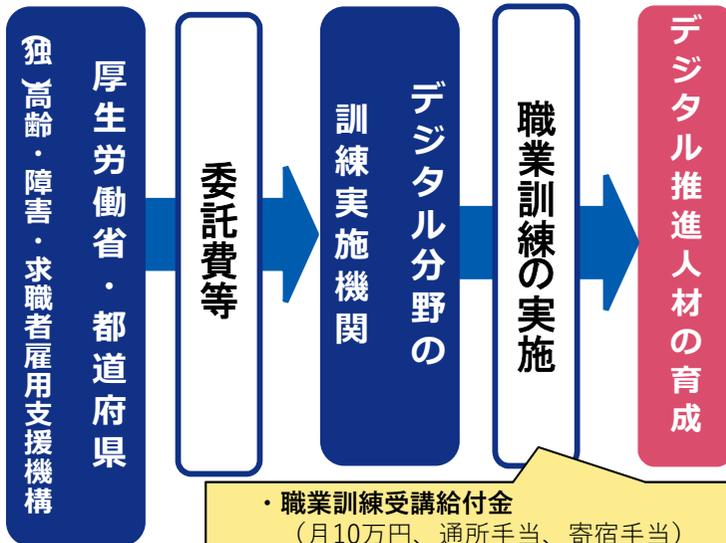
デジタル分野以外の全ての公共職業訓練（委託訓練）及び求職者支援訓練の訓練コースにおいて、訓練分野の特性を踏まえて、DXリテラシー標準に沿ったデジタルリテラシーを身に付けることができるよう、訓練の質的拡充を図る。

※①～②は令和8年度末までの時限措置

3 訓練コースの質・量の確保の取組

訓練コースの質・量の確保のため、デジタル分野の訓練を含む公共職業訓練（委託訓練）の知識等習得コース及び求職者支援訓練の委託費等の単価を1人当たり月3,000円引き上げる【拡充】

4 スキーム・実施主体等



非正規雇用労働者等が働きながら学びやすい職業訓練試行事業の実施

令和7年度概算要求 3.1億円 (3.1億円) ※()内は前年度当初予算額

労働特会		子子特会		一般 会計
労災	雇用	徴収	育休	
	○			

1 事業の目的

変化の激しい企業のビジネス環境に対応するために労働者のスキルアップが求められている中で、正社員に対してOFF-JTを実施した事業所割合が71.4%に対し、正社員以外に対しては28.3%と、正社員以外の労働者の能力開発機会は少ない状況にあり、非正規雇用労働者等が働きながらでも学びやすく、自らの希望に応じた柔軟な日時や実施方法による職業訓練を受講できるような仕組みを構築し、非正規雇用労働者等のリ・スキリングを支援することが必要である。

このため、在職中の非正規雇用労働者等の受講を前提とした様々な受講日程、実施手法等の職業訓練を引き続き試行的に、非正規雇用労働者等に対して提供する。

2 事業の概要・スキーム

(1) 試行事業の実施

独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構において、非正規雇用労働者等を対象とした職業訓練を民間教育訓練機関等への委託により実施し、好事例となる取組を収集する。

(2) 試行事業の内容等

ア 対象者

主に非正規雇用労働者 720名

イ 実施方法等

受講継続等に効果的であるスクーリング形式と、場所や時間を問わず受講しやすいオンライン（オンデマンド、同時双方向）形式を効果的に組み合わせることを想定。

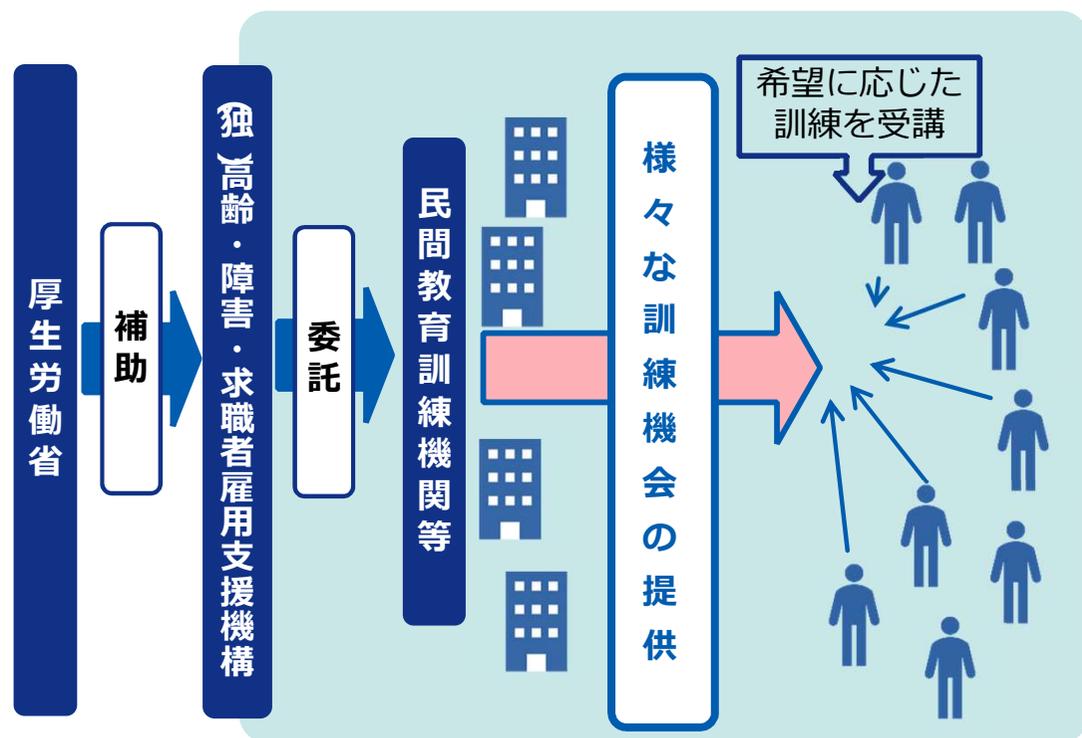
ウ 総訓練時間・受講可能期間

150時間程度。受講可能期間最大6か月

エ 受講継続等の支援策

実施機関において、受講継続勧奨や学習の進捗状況に応じた支援を担当制で行う学習支援者の配置等を実施。

3 実施主体等



令和7年度奈良県職業訓練実施計画の策定に向けて

令和5年度 奈良県職業訓練実施計画		令和6年度 奈良県職業訓練実施計画
公共職業訓練（離職者訓練）		
1. 訓練規模	○施設内訓練 ・奈良県高等技術専門校 180名 ・奈良職業能力開発促進センター 402名	○施設内訓練 ・奈良県高等技術専門校 180名 ・奈良職業能力開発促進センター 382名
	○委託訓練（1,272名） ・長期高度人材育成コース 62名 ・知識等習得コース 1,010名 ・デュアルコース 55名 ・eラーニングコース 85名 ・高齢求職者スキルアップコース 60名	○委託訓練（906名） ・長期高度人材育成コース 61名 ・知識等習得コース 675名 ・デュアルコース 55名 ・eラーニングコース 55名 ・高齢求職者スキルアップコース 60名
2. 就職率目標	施設内訓練 82.5% 委託訓練 75%	施設内訓練 82.5% 委託訓練 75%
3. 訓練内容	<ul style="list-style-type: none"> ・施設内訓練は、「ものづくり分野」を実施。 ・県内における求人者、求職者ニーズを踏まえたコース設定。 ・委託訓練においては、育児や介護等、多様な事情を抱える求職者等でも受講できるよう実施期間・時間に配慮した訓練コースの設定。 	<ul style="list-style-type: none"> ・施設内訓練は、「ものづくり分野」を実施。 ・県内における求人者、求職者ニーズを踏まえたコース設定。奈良職業能力開発促進センターにおいては、CADものづくりサポート科を新設。 ・委託訓練においては、育児や介護等、多様な事情を抱える求職者等でも受講できるよう実施期間・時間に配慮した訓練コースの設定。
公共職業訓練（在職者訓練）		
1. 実施規模	○能力開発セミナー 390名	○能力開発セミナー 400名
2. 訓練内容	<ul style="list-style-type: none"> ・在職者訓練は、能力開発セミナーと称し、主に県内中小企業の在職者を対象に、必要な専門的知識及び技能、技術の向上を目的として、奈良職業能力開発促進センターにて実施。 ・ものづくり分野を中心に「現場力の強化や技能の継承」、「行程の改善や生産性の向上」、「付加価値の高いサービスや新製品の創造」などに資する能力が養成できるよう実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ・在職者訓練は、能力開発セミナーと称し、主に県内中小企業の在職者を対象に、必要な専門的知識及び技能、技術の向上を目的として、奈良職業能力開発促進センターにて実施。 ・ものづくり分野を中心に「現場力の強化や技能の継承」、「行程の改善や生産性の向上」、「付加価値の高いサービスや新製品の創造」などに資する能力が養成できるよう実施。

求職者支援訓練		
1. 対象者数	認定規模（865名） ・新型コロナウイルス感染症の影響による経済情勢の悪化に伴い、やむを得ず離職した方の再就職を促進するため、求職者支援訓練を推進。 ・デジタル化の進展に対応するため、実践コースのうちデジタル系のIT分野コースに12%（60名）、デザイン分野コースに21%（110名）を設定。	認定規模（668名） ・主に非正規雇用労働者や自営廃業者など雇用保険の基本手当を受けることができない者を対象に実施。 ・デジタル化の進展に対応するため、実践コースのうちデジタル系のIT分野コースに5%（25名）、デザイン分野コースに25%（115名）を設定。
2. 基礎と実践の割合	基礎コース 40%程度 実践コース 60%程度	基礎コース 30%程度 実践コース 70%程度
3. 就職率目標	基礎コース 58% 実践コース 63%	基礎コース 58% 実践コース 63%
4. 新規参入の上限	基礎コース 上限値 30% 実践コース 上限値 30%	基礎コース 上限値 30% 実践コース 上限値 10%
5. その他	・育児や介護等、多様な事情を抱える求職者等が受講できるよう、実施期間・時間に配慮した訓練コースやオンライン訓練、託児サービス付訓練コースの設定を推進。 ・IT分野、デザイン分野については、デジタル分野の重点化の観点から、IT、WEBデザイン関連の資格取得を目指す訓練コースの設定を推進。 ・介護・医療・福祉分野の応募倍率の向上のため、応募・受講しやすい募集・訓練日程を検討した上で実施。	・育児や介護等、多様な事情を抱える求職者等が受講できるよう、実施期間・時間に配慮した訓練コースやオンライン訓練、託児サービス付訓練コースの設定を推進。 ・デジタル分野の重点化の観点から、IT、WEBデザイン関連の資格取得を目指す訓練コースの設定を推進。 ・介護・医療・福祉分野の応募倍率及び定員充足率の向上のため、応募・受講しやすい募集・訓練日程を検討した上で実施。

令和7年度奈良県職業訓練実施計画の策定に向けた方針（案）

実施状況の分析

①応募倍率が低く、就職率が高い分野がある。
 （R5実績に該当する訓練分野）「介護・医療・福祉分野」
 【委託訓練】応募倍率84.0%、就職率97.7%
 【求職者支援訓練】応募倍率67.5%、就職率81.4%

- ・応募・受講しやすい募集・訓練日程の検討が必要。
- ・訓練コースの内容や効果を踏まえた受講勧奨の強化。
- ・ハローワークを利用していない層を含めた周知の強化。
- ・ワーキンググループによる効果検証の対象候補としての検討。

②応募倍率が高く、就職率が低い分野がある。
 （R5実績に該当する訓練分野）「デザイン分野」
 【委託訓練】応募倍率77.0%、就職率81.3%
 【求職者支援訓練】応募倍率123.9%、就職率51.0%

- ・人材ニーズに即した訓練内容になっているか、就職支援策が十分か検討が必要。
- ・ハローワーク、訓練実施機関が連携した就職支援が必要。
 （訓練修了者歓迎求人確保や仕事内容の詳細な聞き取り、ハローワーク職員と訓練実施機関による意見交換会等の実施等）
- ・ハローワーク職員の知識の向上。

③応募倍率が低く、就職率が低い分野がある。
 （R5実績に該当する訓練分野）「IT分野」
 【委託訓練】応募倍率36.7%、就職率71.4%
 【求職者支援訓練】応募倍率46.7%、就職率75.0%

- ・求人ニーズ、求職者ニーズに即した訓練内容になっているか、就職支援策が十分か検討が必要。
- ・訓練コースの内容や効果を踏まえた受講勧奨の強化。
- ・ハローワーク職員の知識の向上。

計画と実績の乖離

委託訓練の受講者が減少。
 充足率 R4 60.5%、R5 50.9% 対前年度比 △9.6P
 受講者数 R4 560人、R5 471人 対前年度比 △15.5%
 定員 R4 926人、R5 925人 対前年度比 △0.1%

- ・周知・広報の強化等により受講者数増加に向けた取り組みが必要。
- ・委託訓練と求職者支援訓練の訓練コースが重複していることによる受講者の分散を防ぐため、県委託訓練の定員を実績ベースで見直し、開講時期についても、受講者ニーズの高い時期に重点化。

人材ニーズを踏まえた設定

デジタル人材が質・量とも不足、都市圏偏在がある。
 （デジタル田園都市国家構想総合戦略）

- ・職業訓練のデジタル分野への重点化を進め、一層の設定促進が必要。

令和6年度における奈良県職業訓練実施計画

令和6年3月

第1 総則

1 計画のねらい

産業構造の変化、技術の進歩その他の経済的環境の変化の中で、職業の安定、労働者の地位の向上及び経済社会の発展を図るためには、これらによる業務の内容の変化に対する労働者の適応性を増大させ、及び円滑な就職に資するよう、労働者に対して適切な職業能力開発を行う必要がある。

このため、都道府県、事業主等が行う職業能力開発に関する自主的な努力を尊重しつつ、雇用失業情勢等に応じて、国が職業能力開発促進法（昭和44年労働省令第64号。以下「能開法」という。）第16条第1項の規定に基づき設置する公共職業能力開発施設（以下「公共職業能力開発施設」という。）において実施する職業訓練（能開法第15条の7第3項の規定に基づき実施する職業訓練（以下「委託訓練」という。）を含む。以下「公共職業訓練」という。）及び職業訓練の実施等による特定求職者の就職の支援に関する法律（平成23年法律第47号。以下「求職者支援法」という。）第4条第1項の規定により厚生労働大臣の認定を受けた職業訓練（以下「求職者支援訓練」という。）の充実を図ることにより、労働者の十分な職業能力開発の機会を確保する必要がある。

本計画は、奈良県における現下の雇用失業情勢等を踏まえ、本計画の対象期間（以下「計画期間」という。）中の公共職業訓練及び求職者支援訓練（以下「公的職業訓練」という。）の対象者数等を明確にし、計画的な公的職業訓練の実施を通じて、職業の安定、労働者の地位の向上等を図るものである。

また、本計画の実施にあたり、奈良労働局及び県下各ハローワーク、奈良県、独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構奈良支部等の関係機関は、円滑な連携により、効率的かつ効果的な公的職業訓練の実施を図るものとする。

2 計画期間

計画期間は、令和6年4月1日から令和7年3月31日までとする。

3 計画の改定

本計画は、公的職業訓練の実施状況等を踏まえ、必要な場合には改定を行うものとする。

第2 労働市場の動向、課題等

1 労働市場の動向と課題

新型コロナウイルス感染症の感染拡大後、有効求人倍率や完全失業率の悪化など、雇用への大きな影響が見られたものの、令和6年1月の有効求人倍率は1.14倍で

あり、引き続き求人が求職を上回って推移している状況が続いているが、今後も物価上昇等が雇用に与える影響に留意する必要がある。

中長期的には、少子高齢化・人口減少社会が進展する中、労働供給制約という課題を抱えている。こうした中で、持続的な経済成長のためには、多様な人材が活躍できるような環境整備を進め、労働生産性を高めていくことが必要不可欠であり、そのためには、職業能力開発への投資を推進していくことが重要である。

デジタル・トランスフォーメーション（DX）やグリーン・トランスフォーメーション（GX）（以下「DX等」という。）の進展と言った大きな変革の中で、中小企業等の着実な事業展開、生産性や技能・技術の向上のために必要となる人材の確保、育成が求められている。加えて企業規模等によってはDX等の進展への対応に遅れが見られることにも留意が必要である。

こうした変化への対応が求められる中、地域のニーズに合った人材の育成を推進するためには、公的職業訓練の在り方を不断に見直し、離職者の就職の実現に資する公的職業訓練や、産業界や地域の人材ニーズに合致した在職者の生産性の向上等、多様な職業能力開発の機会を確保・提供することが重要である。

特に、デジタル分野については、「デジタル田園都市国家構想総合戦略（2023改訂版）」（令和5年12月26日閣議決定）等において、デジタル人材が質・量ともに不足していることと、都市圏への偏在といった課題を解決するために、職業訓練のデジタル分野の重点化に計画的に取り組む必要がある。

2 直近の公的職業訓練をめぐる状況

令和5年度新規求職者は、令和6年1月末現在で38,855（前年同月比▲1.3%）人であり、そのうち、求職者支援法第2条に規定する特定求職者に該当する可能性のある者の数は、19,275（前年同月比▲0.08%）人（割合49.6%）であった。

令和5年度の公的職業訓練の受講者数については、以下のとおりである。

	令和4年度12月迄	令和5年度12月迄	前年同期比
離職者に対する公共職業訓練	821人	732人	89.2%
求職者支援訓練	443人	473人	106.8%
在職者訓練	347人	259人	74.6%

第3 令和6年度の公的職業訓練の実施方針

令和4年度の離職者向け公的職業訓練の実施状況を分析すると、

- ① 応募倍率が高く、就職率が比較的高い分野があること。
営業・販売・事務分野：応募倍率89.9%、就職率86.5%
IT・デザイン分野：応募倍率137%、就職率88.1%
- ② 応募倍率が高く、就職率が高い分野があること。
介護・医療・福祉分野：応募倍率94.2%、就職率97.3%
- ③ 応募倍率が低く、就職率が高い分野があること。

医療事務分野：応募倍率 64.0%、就職率 100%

といった課題が見られた。

これらの課題解消のため、令和6年度の公的職業訓練は、以下の方針に基づいて実施する。ハローワーク等では、訓練実施施設との連携強化（施設見学・意見交換会・就職支援等の共有）や事業所訪問による公的訓練制度の周知及びハローワークを利用していない層（女性層をターゲット）への周知・広報を行っていく。

- ① については、応募・受講しやすい募集・訓練日程の検討を行った上で実施するとともに、訓練実施施設への見学により、訓練コースの内容や効果を踏まえた受講勧奨を強化するとともに、訓練実施施設とハローワークが連携した就職支援を実施することで就職支援を強化する。
- ② については、応募・受講しやすい募集・訓練日程の検討を行った上で実施するとともに、ハローワーク職員等による施設見学や介護系セミナー等を受講することで仕事理解や職場環境などの理解促進を進め、職業相談側の意識を変えるための取組みを行う。また、求職者等には、職業訓練や介護職等に目を向けてもらうための取組みをハローワークで実施する。
- ③ については、訓練実施施設への見学会の実施や訓練実施施設と連携し、訓練カリキュラムや資格取得情報などの把握をハローワークが行うことで、積極的な周知・広報・誘導に努める。

また、上記の課題解消のために、公的職業訓練が計画的かつ効果的に実施できるよう、引き続き、地域の関係者が連携・協力関係を強化するための連絡、協議の場を設けるとともに、奈良労働局、奈良県、独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構奈良支部をはじめ、訓練実施機関、経済団体、労使団体等との幅広い連携、協力関係により、地域の人材育成に取り組んでいくこととする。

第4 令和6年度における公的職業訓練の対象者数等

1 離職者に対する公的職業訓練

(1) 奈良県立高等技術専門学校（訓練期間：1年間） 9科目 180名

ものづくりの基本となる技能を習得するための職業訓練を実施する。

施設/科目	定員
奈良県立高等技術専門学校	180
ITシステム科	20
家具工芸科	20
建築科	20
住宅設備科	20
服飾ビジネス科	20
オフィスビジネス科	20
ビルメンテナンス科	20
造園技術科	20

- (2) 奈良職業能力開発促進センター（訓練期間：6～7ヶ月）9科目 382名
 地域の事業主団体や事業主等、業界の人材ニーズを基に、主にものづくり分野であ
 って、民間の教育訓練施設では実施が難しいコースを設定する。
 次年度は、地域のニーズに基づき、機械 CAD 技術科を廃止して、CAD ものづくりサポ
 ート科を新設する。

施設/科目	定員
奈良職業能力開発促進センター	382
CAD/NC技術科	45
CADものづくりサポート科	48
住環境コーディネート科	64
住宅リフォーム技術科	64
電気設備技術科	48
金属加工技術科(若年者コース)	32
CAD/NC技術科(若年者コース)	15
電気設備技術科(若年者コース)	16
ビジネススキル講習(橋渡し訓練)	50

- (3) 奈良県が実施する委託訓練は、訓練定員を 906 名で以下のとおり計画する。

コース/分野	906
長期高度人材育成コース	61
介護福祉士養成科(2年コース)	15
栄養士養成科(2年コース)	12
言語聴覚士養成科(2年コース)	13
保育士養成科(2年コース)	12
美容師養成科(2年コース)	9
知識等習得コース	675
総務・経理事務分野	465
医療事務分野	45
介護・福祉分野	90
美容分野	30
WEB デザイン分野	45
デュアルコース	55
WEB デザイン分野	25
農業分野	30
e ラーニングコース	55

	総務・経理分野	40
	介護分野	15
高齢求職者スキルアップコース		60
	事務分野	60

(4) 分野に応じた訓練コースの設定等

① デジタル分野について

- ・ デジタル分野の重点化の観点から、令和6年度委託訓練のうち、「デジタル分野」の設定で70名を設定する。またWEBデザイン関連の資格取得を目指すコースや企業実習を組み込んだ訓練コースの委託費の上乗せ措置、オンライン訓練（eラーニングコース）におけるパソコン等の貸与に要する経費を委託費の対象とする措置に加え、DX推進スキル標準に対応した訓練コースについて、委託費の上乗せ措置の対象とすることにより、訓練コースの設定を推進する。

② デザイン分野について

- ・ 求人ニーズに即した効果的な訓練内容になっているか、検討した上で、求職者が自身の希望に沿った適切な訓練コースを選択できるよう、支援を行うハローワークの訓練窓口職員の知識の向上や、訓練実施施設による事前説明会や見学会に参加できる機会の確保を図るとともに、訓練修了生の就職機会の拡大に資するよう訓練修了者歓迎求人等の確保に取り組み、十分な就職支援を実施する。
- ・ 職業訓練の受講により習得できるスキル（資格など）の見える化・明確化を進める一方で、求人企業が求めるスキル等の見える化・明確化や、公的職業訓練受講者をターゲットにした求人提出の働きかけの実施等ハローワークと連携した就職支援を実施する。

③ ものづくり分野については、DX等に対応した職業訓練コースを拡充させる。

④ 介護・医療・福祉分野については、職業訓練の応募倍率及び定員充足率の向上のため、応募・受講しやすい募集・訓練日程を検討した上で実施するとともに、ハローワーク職員等による施設見学や介護系セミナー等を受講することで仕事理解や職場環境などの理解促進を進め、職業相談側の意識を変えるための取り組みを行う。また、求職者等には、職業訓練や介護職等に目を向けてもらうための取り組みをハローワークで実施する。さらに介護分野では、職場見学・職場実習等を組み込んだ訓練コースの委託費の上乗せ措置により、訓練コースの設定を促進する。

⑤ 委託訓練については、計画数を踏まえ、十分な訓練機会の確保に努める。

⑥ 全ての労働者がデジタルリテラシーを身につけ、デジタル技術を活用できるようにすることが重要であるとされていることから、デジタル分野以外のすべての訓練コースにおいて、デジタルリテラシーの向上促進を検討する。

(5) 対象者に応じた訓練コースの設定等

- ・ 育児や介護等、多様な事情を抱える求職者等でも受講できるよう実施期間・時間に配慮した訓練コースや、オンライン訓練（eラーニングを含む。）、託児サービス付

き訓練コースの設定を推進する。

- ・雇用のセーフティネットとして、母子家庭の母等のひとり親、刑務所を出所した者等特別な配慮や支援を必要とする求職者に対して、それぞれの特性に応じた職業訓練を実施する。
- ・これまで能力開発の機会に恵まれなかった非正規雇用労働者等を対象とした国家資格の取得等を目指す長期の訓練コースについては、対象となる者の受講促進に努め、正社員就職に導くことができる充実した訓練の実施を推進する。

2 学卒者に対する公的職業訓練

学卒者に対する訓練は、奈良県高等技術専門校において実施する。

(1) 対象者（数）

奈良県高等技術専門校（離職者訓練枠を含む）
9コース（定員 180 名）（販売実務科を含む）

- ・中学校・高等学校卒業（見込者）対象
建築科 住宅設備科 服飾ビジネス科 オフィスビジネス科
ビルメンテナンス科 造園技術科
- ・高等学校卒業（見込者）対象 IT システム科 家具工芸科

3 障害者等に対する公的職業訓練

障害者等に対する訓練は、奈良県高等技術専門校において実施する。

(1) 対象者（数）

販売実務科 定員 20 名 知的障害者対象
実践能力習得訓練コース 定員 15 名

(2) 職業訓練の内容

就職に結びつきやすくするために関係機関との連携を図り、対象となる障害者の確保、法定雇用率が未達成である企業や障害者雇用の経験が乏しい企業を含めた委託先の新規開拓に取り組む。

4 求職者支援訓練

(1) 対象者数及び目標

- ・計画期間中に実施する求職者支援訓練の対象者は、主に非正規雇用労働者や自営廃業者など雇用保険の基本手当を受けることができない者（受給が終わった者も含む。）であり、雇用のセーフティネットとしての機能が果たせるよう、訓練認定規模 668 人を上限として設定する。
- ・雇用保険適用就職率：基礎コース 58% 実践コース 63%

(2) 職業訓練の内容、職業訓練を設定する上での留意事項等

求職者支援訓練については、訓練内容や訓練コースの設定について、以下の点を踏まえた実施に努める。

ア 職業訓練の内容等

- ・ 訓練内容としては、基礎的能力を習得する職業訓練（基礎コース）及び、実践的能力を習得する職業訓練（実践コース）を設定し、認定規模の割合は以下のとおりとする。

基礎コース 訓練認定規模の 30%程度

実践コース 訓練認定規模の 70%程度

※ 実践コース全体の訓練認定規模に対してデジタル系訓練分野に 30%、介護分野 20%を下限の目安として設定する。

- ・ 地域ニーズ枠については、より安定した就職の実現に資するよう、独自の訓練分野、特定の対象者又は特定の地域を念頭に置いた訓練等について設定を可能とする。設定にあたっては、公共職業訓練（離職者訓練）の訓練規模、分野及び時期も踏まえた上で、認定規模の 30%以内とする。

- ・ 新規参入となる職業訓練の上限は以下のとおりとする。

基礎コース 30%

実践コース 10%

- ・ 新規参入枠については、必ず設定することとするが一の申請対象期間における新規参入枠以外の設定数（以下「実績枠」という。）に対する認定申請が当該実績枠の上限を下回る場合は、当該実績枠の残余を当該申請対象期間内の新規参入枠とすることも可能とする。

- ・ 新規参入枠については、職業訓練の案等が良好なものから、実績枠については、求職者支援訓練の就職実績等が良好なものから認定する。

- ・ 求職者支援訓練は、受講者に対する訓練修了前から就職まで一貫した支援のため、ハローワークと関係機関との連携強化の下、ジョブ・カードを活用したキャリアコンサルティング、求人情報の提供等の計画的な就職支援を実施する。

- ・ 全ての労働者がデジタルリテラシーを身につけ、デジタル技術を活用できるようにすることが重要であるとされていることから、デジタル分野以外のすべての訓練コースにおいて、デジタルリテラシーの向上促進を図る。

イ 分野に応じた訓練コースの設定

i : IT 分野、デザイン分野について

- ・ デジタル分野の重点化の観点から、IT、WEB デザイン関連の資格取得を目指す訓練コースへの基本奨励金の上乗せ措置、企業実習を組み込んだデジタル分野の訓練コースやオンライン訓練（e ラーニングコース）におけるパソコン等の貸与に要した経費への奨励金支給措置に加え、DX 推進スキル標準に対応した訓練コースについて、基本奨励金の上乗せ措置の対象とすることにより、訓練コース設定を推進する。

- ・求人ニーズに即した効果的な訓練内容になっているか、検討した上で、求職者が自身の希望に沿った適切な訓練コースを選択できるよう、支援を行うハローワークの訓練窓口職員の知識の向上や、訓練実施施設による事前説明会や見学会に参加できる機会の確保を図るとともに、訓練修了生の就職機会の拡大に資するよう訓練修了者歓迎求人等の確保に取り組み、十分な就職支援を実施する。
- ・職業訓練の受講により習得できるスキル（資格など）の見える化・明確化を進める一方で、求人企業が求めるスキル等の見える化・明確化や、公的職業訓練受講者をターゲットにした求人提出の働きかけの実施等、ハローワークと連携した就職支援を実施する。

ii：介護・医療・福祉分野について

- ・職業訓練の応募倍率及び定員充足率の向上のため、応募・受講しやすい募集・訓練日程を検討した上で実施するとともに、ハローワーク職員等による施設見学や介護系セミナー等を受講することで仕事理解や職場環境などの理解促進を進め、職業相談側の意識を変えるための取組みを行う。また、求職者等には、職業訓練や介護職等に目を向けてもらうための取組みをハローワークで実施する。さらに、介護分野については、職場見学・職場体験等を組み込んだ訓練コースへの奨励金支給措置により、訓練コースの設定を促進する。

ウ 対象者に応じた訓練コースの設定等

- ・育児や介護等、多様な事情を抱える求職者等でも受講できるよう実施期間・時間に配慮した訓練コースやオンライン訓練（eラーニングを含む。）、託児サービス付訓練コースの設定を推進する。

コース/分野		668	
基礎コース		200	訓練認定規模の 30%
	介護分野	20	基礎コースの 10%程度
実践コース		468	訓練認定規模の 70%
	介護分野	115	実践コースの 25%程度
	医療事務分野	70	実践コースの 15%程度
デジタル系	IT 分野	25	実践コースの 5%程度
	デザイン分野	115	実践コースの 25%程度
その他分野		143	実践コースの 30%程度

5 在職者に対する公的職業訓練等

在職者に対する訓練は、奈良職業能力開発促進センターにおいて実施する。

(1) 対象者数（目標数）

公共職業訓練（在職者訓練）	400 人
生産性向上支援訓練	675 人（サブスクリプション型訓練 25 人含む）

(2) 職業訓練の内容

- ・ 在職者訓練は『能力開発セミナー』と称し、主に中小企業のものづくり分野において中核的役割を果たしている方を対象に、仕事を遂行する上で必要な専門的知識及び技能・技術の習得と向上を目的として実施する。
- ・ 地域の中小企業事業主等の人材ニーズを把握したうえで、中小企業等で働く中核的な役割を果たしている方を対象に、ものづくり分野を中心に「現場力の強化や技能の継承」、「工程の改善や生産性の向上」、「付加価値の高いサービスや新製品の創造」などに資する能力が養成できるよう実施する。
- ・ 生産性向上人材育成支援センターにおいては、幅広い分野の事業主からのデジタル人材や生産性向上に関する相談等に対応するとともに、課題の解消に向けた適切な職業訓練のコーディネート等の事業主支援を実施する。
- ・ DX 等に対応した 46 コースを選定し、DX 推進のための人材育成に取り組むものとする。
- ・ 訓練の効果を客観的に把握する観点から、訓練コースの受講を指示した事業主等に対して、受講者が習得した能力の職場での活用状況について確認する。